

●特集

県立中央病院 全院開院



基幹病院としての役割

県立中央病院は、山梨県の基幹病院として、他の医療機関と連携を図りながら県民医療を確保するとともに、県内の医療水準の向上を目指します。

また、県民から信頼される病院として、専門知識と技術の向上に努め、医学の進歩に対応した質の高い医療を提供します。
随所に患者さんの立場に立つ配慮を加えた新県立中央病院は、県民の期待を担い、患者本位の人間的な医療を提供していきます。

主な機能

○がんセンター機能

がんは、県民の疾病別死亡原因の第一位です。また、がんは高度な専門医療を必要とする病気です。このがんの制圧拠点として県立中央病院にがんセンター機能を整備しました。

がんの診療では、早期発見、早期治療が重要なかぎを握ります。このため、MRIなどの増設や内視鏡センターの設置、放射線照射装置などの高度な医療機器を整備し、手術や化学療法、放射線治療などを含めた集学的治療を行います。また、がん医療を向上させるた

めの基礎、臨床研究を行う体制の整備を進めます。

終末期医療については、従来の延命治療を望まない患者さんが心安らかな環境で終末期を迎えられるよう、激しい痛みなどの苦痛を和らげるとともに、精神的なサポートを充実させた緩和ケア病棟を整備しました。

病室はカーペット敷きで全体に温かみのある色調となっています。また、家族控え室では、簡単な調理も行えるなど家族と生活できるスペースを確保しています。



MRI (磁気共鳴画像診断装置)

○周産期医療センター機能

出生前後は、母子ともに死亡や重大な障害に陥る危険性が高い時期です。妊娠22週から出生1週未



NICU (新生児集中治療管理室)

満までを周産期ととらえて、母子に対する産科・小児科を通じた一貫した医療を行う周産期医療センターが整備されています。

周産期医療センター内には、新生児集中治療管理室や母体胎児集中治療室などが整備されています。

○救命救急センター機能

県内唯一の三次救急医療を担う病院として、救命率の向上に配慮されるよう、救急用の独立した集中治療室や重傷者高度治療室を整備しています。

また、所轄の消防署や救急車、県の消防防災ヘリコプターとを結ぶホットラインを活用したヘリコプターでの救急患者搬送が行えるヘリポートを病棟屋上に整備しまし

た。

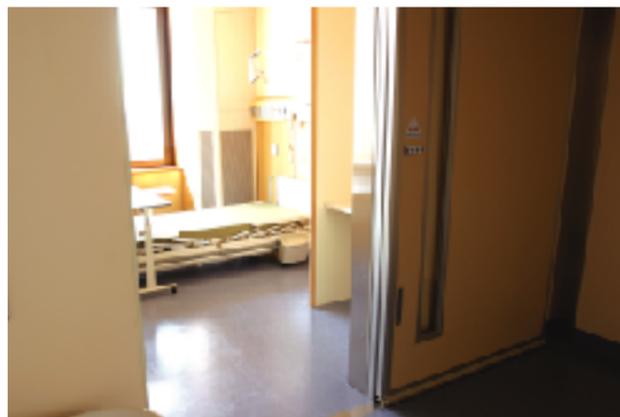
○その他の主な機能

女性特有の疾病を女性医師が総合的に相談を受け、診断や治療を行うため、女性専門外来を設置しました。

また、「第一種感染症指定医療機関」の指定を受けて、感染症専用病室2室、2床を設置しました。

病院全体の取り組みとして、患者教育、患者相談機能を充実するとともに、常に研究が行える環境の整備を進めています。

そのほか、県立中央病院では、受診される方のために、病院と診療所、病院と病院間の連携のもと、紹介制や予約制を拡大しています。



感染症病床 (病室内の気圧を下げ二重ドアにより病原体が外部に流出しない構造)

3月22日、県立中央病院が7年ぶりに全院開院となりました。

平成10年3月に病院本体の建設工事に着手し、2月に第2期工事が完了。今後は、残る旧棟の解体や駐車場の整備、外構工事などを進めます。

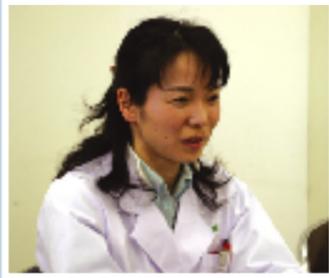
改築を終えた新しい県立中央病院は、県内の基幹病院として県民医療の中心的な役割を果たすとともに、災害拠点病院として、災害時には県下各地域の救護所や病院などから重篤患者(症状の重い患者さん)などの受け入れを行います。

建物の概要

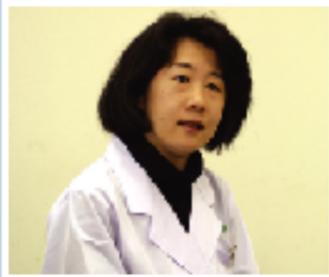
構造	鉄骨・鉄筋コンクリート造 (免震構造)	
	地上9階、地下1階	
病床	一般病床	669床 (ICUなど特殊病床31床含む)
	結核病床	20床
	感染症病床	2床
	計	691床

性差医療が目指すトータルサポート

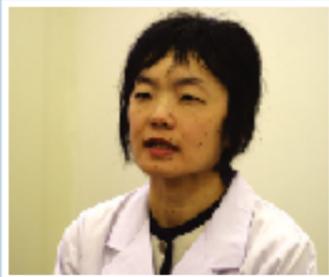
interview



女性外来担当 縄田昌子 医師



女性外来担当 塚本路子 医師



女性外来担当 瀬戸理恵 医師

県内で初めて設置される「女性専門外来」。担当される3人の女性医師から、どのような外来になるのかお聞きしました。

—女性専門外来を設置する目的は、どんなところにあるのでしょうか。
塚本 女性の一生はエストロゲンという女性ホルモンの影響を大きく受けます。これは男性のデータだけでは不明な部分ですね。男性の先生でも、女性特有の変調に理解を持たれる先生方がたくさんいらっしゃいますが、同性の立場からサポートできることも多くあると思います。

縄田 医療の現場では、今まで女性のデータが少なく、女性の診察に男性のデータを当てはめてきたという歴史があります。男性にかかりやすい病気、女性にかかりやすい病気がなぜあるのか解明されていっていませんでした。そこで女性のデータをまとめて、医療に反映させていこうという目的の一つにあります。

—女性医師が対応することで、受診のた

めらいは少なくなるように思いますが。
塚本 もちろん女性には恥ずかしさで受診をためらっている場合も多いでしょうし、どの科にいけばいいのか分からない場合もあります。ですから、まず患者さんの話を医療サイドから見ると新たな疾患や治療法を見つけることですが、女性の健康の道案内という役割もあります。

瀬戸 お話を良くお聞きすることで解明されてきた疾患もありますし、話しをすることで体が治療につながる場合もあるので大切なことです。女性にもさまざまな生き方がある中で、精神的な原因から体調を崩すこともありますので、そこもサポートできればと思います。

タルケア的な役割もあるということですか。
瀬戸 そうですね。女性は長生きしても、生活の質は失われやすいといわれます。女性の健康をサポートすることは、女性が健康を維持することで社会に貢献していくという、広がりのあることだと思っています。

塚本 しかし私たちですべて解決というわけにはいきません。よく婦人科と女性外来の違いを聞かれますが、当然、婦人科のような専門科にお任せする部分はたくさんあります。病院の内外を問わず、専門科医の先生方と連絡を密にとり合う中で、専門の治療が必要な方たちにはきちんと紹介します。恥ずかしくて受診できない、という場合でも説明することで受診の後押しをすることが大切だと考えています。

縄田 女性専門外来は全国的にも始まって長くありません。ですから皆さま方がどんな外来なのかよく分からないということもあると思います。女性が生涯にわたって健康でいられるお手伝いができればと考えています。

受付は電話による完全予約制。
受付時間は、月～木の15時～17時
診療は、月～金の9時～15時です。

自身と向き合うための緩和ケアを

interview



緩和ケア病棟担当 阿部文明 医師



原由紀子 看護師



新しく生まれた「緩和ケア病棟」。悪性腫瘍の終末期における病棟の重要性を、担当医と看護師に語っていただきました。

—緩和ケア病棟とは、どういった病棟なのでしょうか。
阿部 もちろん、がんは適切な診断・治療を行うことは当然のことです。しかし、残念ながら、がんが進行してしまった場合、がんをトータルで見るとがんセンターの中で、アンカークの役割を持つのが緩和ケア病棟といえます。がんを発見して、治療して、しかし最終的に完治できず亡くなってしまふことが予想される場合、「治療を目的とした治療に反応しなくなった状態」といいますが、そうした状況になった場合にケアしていく病棟です。

—具体的にはどういうことでしょうか。
阿部 痛みには病状に伴って四つあるといわれます。身体的な痛み、精神的な痛み、家族などの社会的な痛み、そして自分自身の存在を考えた

たり、生き方に関わる霊的な痛みですね。治療ができない、治療をしないことはイコール何もしないと誤解されやすいですが、それらの痛みを取り除いていくのです。治療ではなく身体的な痛み以外の痛みも和らげ苦痛を取り除いていくのが主な役割だと考えています。

—患者さんやその家族にはどんな意味をもつのでしょうか。
阿部 基本的には緩和ケアは生活の場になります。しかし医療的な介助が必要な場合が多いので、その部分を補助するわけです。たとえば：生き方を啓示することはできませんが、体の状態が悪くても自分自身を見つめ直すことすらできません。そこで体調を保つことが必要ですね。

原 根本的にはどこの病棟でも、緩和ケアは行われています。というの

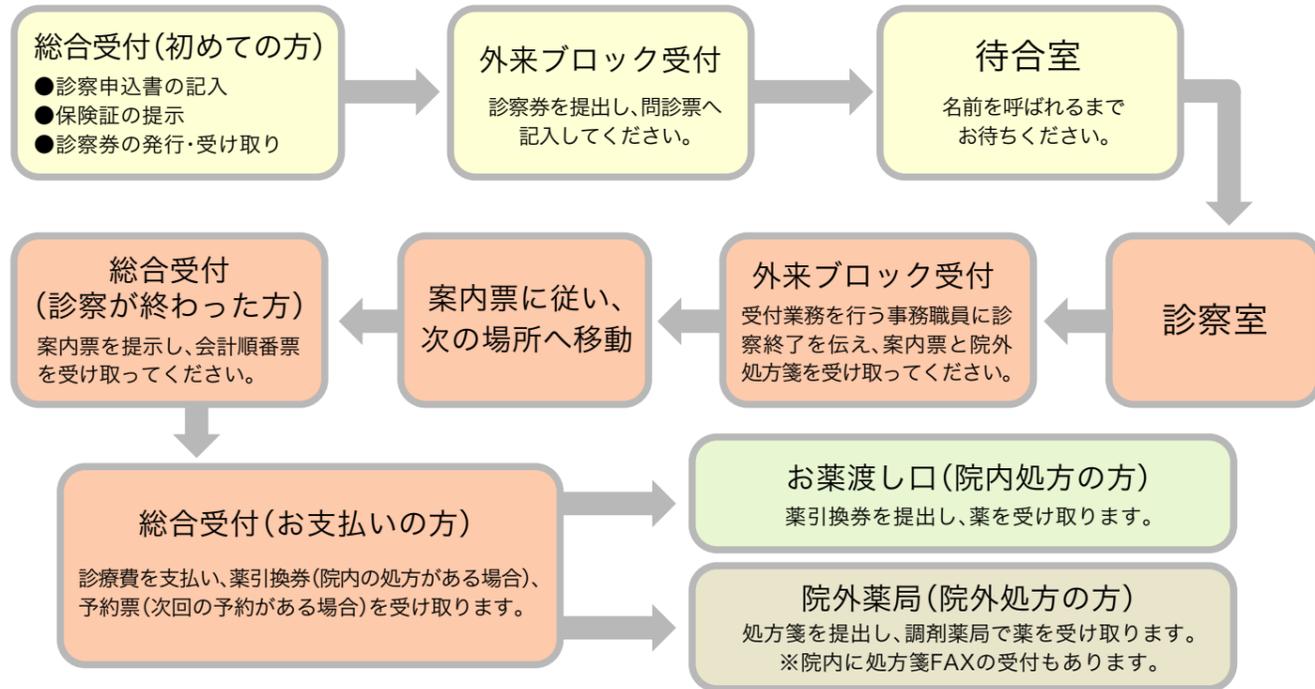
は、どの病棟でも終末期の患者さんはおられます。しかし完治までのスケジュールの中で過ごされている患者さんと、完治できない患者さんが共にいるということは、非常に難しいことですね。また治すという目的を持って頑張ってきた患者さんが、今度は残された時間をいかに自分が生きるかということにギアチェンジするにも、精神的な苦痛を伴うことが予想されます。そこを援助したいと考えています。

—病院として最大限にお手伝いするところが、緩和ケア病棟だということですか。
原 そうですね。最後まで治療を選択することで、そこに望みを持っていただければそれは良いことだと思います。ただあまり効果がないことを理解しつつ治療を続けるよりは、残った時間をどう生きるかに向き合いたいという方もおられます。そういう意味で患者さんや家族にその選択肢が増えたといえると思います。

阿部 いかにかに生きるかを考えるのは患者さん自身です。私たちが過しやすい環境を提供することで、生と向き合っていたら、ただ終末期が迫っているから入る病棟ではないということが重要なところなんです。

初めて中央病院で受診される方の手順

診察を希望される患者さんは、次の手順で受診してください。



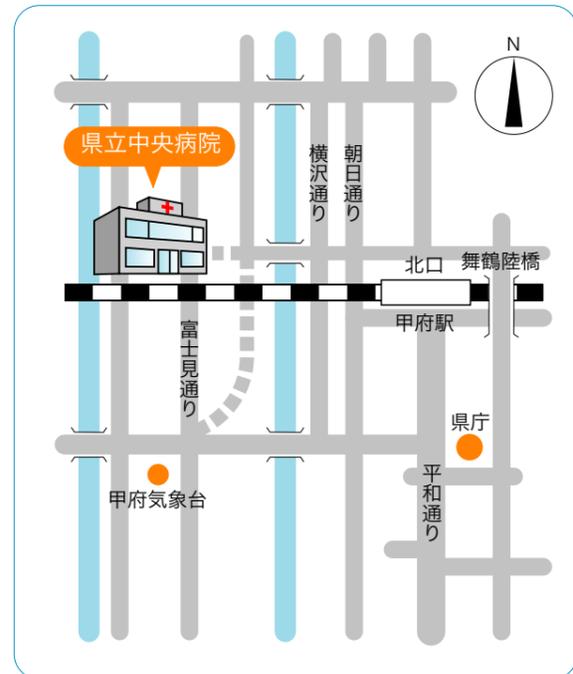
- 他の医療機関から紹介をいただく場合は、かかりつけの診療所や他の医療機関から紹介状を受け取り、県立中央病院におこしてください。(医療連携室にかかりつけの診療所などから連絡いただくと診察の予約ができます。)
- 医療連携室を通して予約された患者さんは、外来ブロック受付から手続きを行ってください。
- 予約の有無などにより、待ち時間に差が生じます。ご了承ください。

病院案内

- 診療受付時間

総合受付・診療受付	8:30~11:00
予約再診受付(電話による)	13:00~16:00 <small>眼科、口腔外科は15:00~16:00</small>
 - 診療時間 9:00~17:00
 - 休診日 土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始(12月29日~1月3日)
 - ※ただし、救急患者はこの限りではありません。
 - 診療科目

内科、精神科、神経内科、小児科、皮膚科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科・緩和ケア、リハビリテーション科、歯科口腔外科、放射線科、女性専門外来
- 所在地: 〒400-0027 甲府市富士見一丁目1番1号
 TEL:055-253-7111(代表)
 ※予約センター、医療連携室、女性専門外来も代表からお願いします。
<http://www.ych.pref.yamanashi.jp/>



01

災害時の救護拠点スペースとして活用可能なエントランスホール



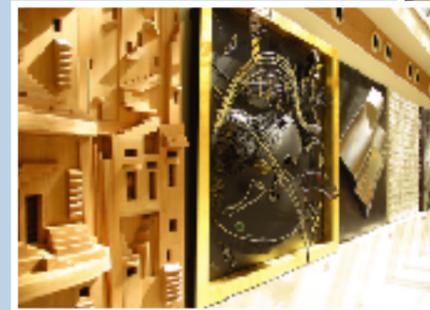
重篤患者の速やかな搬送を行うための屋上ヘリポート

基幹災害拠点病院として

大規模災害時などの緊急医療を確保するため、県立中央病院は免震構造を採用しています。ライフラインが途絶えた場合でも3日間、病院機能を維持することができる、医療品などの備蓄倉庫や自家発電設備など、基幹災害拠点病院としての機能を備えています。災害時には県下各地域の救護所や病院から重篤患者の受け入れを行うこととなります。

02

5作家によるコラボレーション作品(エントランスホール)



エントランスホールのモニュメント

患者本位の環境づくり

県立中央病院では、病院利用者の持つ不安や不快、苦痛、緊張などを少しでも癒やし、やすらぎを与えるための環境づくりに取り組まれました。県内にゆかりのある作家による「生命・命」をテーマにしたヒーリングアート(癒やし)の美術作品をパブリックゾーンや待合い、屋上庭園などに設置しています。

また、建物の歩行空間における段差の解消や手すりの設置、個室率を向上させるなど、快適な医療環境の整備に努めています。

03

院内の案内もボランティアスタッフが対応します



車いすの患者さんの補助をするボランティアスタッフ

ボランティアサポート

快適な医療環境を少しでもサポートするため、ボランティアスタッフによる患者の補助や介助、案内なども行っています。

受付やお支払いの方法がわからなかったり、どこに行けば良いのか迷われたり、また歩行が困難な場合なども、お気軽に声をかけてください。

また、健康で病院ボランティアに興味のある方は、県立中央病院にお問い合わせください。